

中林 忠良(美術学部版画)

『中林忠良・全版画 1961-1983』

版画はそれぞれの作品が複数の刷り(エディション)をもつから、作品ノートが非常に大切になるジャンルである。

1963年頃、恩師である元本学教授の駒井哲郎先生が、そう云われてノート作りを勧められた。後年、先生ご自身はノートを作っておられないことを知って、アレレと思ったが、時代の相違である。エディションを刷り切ることも必要がなかった、版画が不人気の時代だったからである。

お陰でぼくは、学生の時代から作品ノートを作る習慣をもち、したがってこの全版画出版の折りは一点も欠かすこともなく全版画のデータを収録できたのは幸いであった。

そこでは小倉忠夫氏に文章を寄せてもらえた。その後『白と黒の世界展』では林紀一郎氏と栗津則雄氏に、『銅版画展』では自分が制作について述べたので、通してご覧いただければ仕事の全貌がご理解いただけるだろう。

(2002年11月 教官アーカイヴ展に寄せて)